

キャラクターの性格を特徴づける言葉づかい

— アニメ『五等分の花嫁』の分析 —

佐藤茉奈花

キーワード：アニメ、キャラクター、性格、エゴグラム、特徴語

1. はじめに

マンガやアニメなどの創作作品におけるキャラクター¹の言葉づかいについては、金水（2003）をはじめとする役割語研究で盛んに研究が行われてきた。役割語研究では「お嬢様ことば」や「博士語」のように、年齢や性別、職業といった社会的属性と言葉づかいの結びつきに焦点が当てられている。

しかし、社会的属性が同じ登場人物が複数登場するようなアニメにおいても、言葉づかいによるキャラクターの描き分けが行われている。例えば、主に学校生活を舞台とした、いわゆる「学園もの」と呼ばれるアニメにおけるキャラクターたちは、同じ学校に通う学生で、年齢や学年、性別といった社会的属性がそろっている場合でも、様々な言葉づかいをしている。このような作品において、キャラクターの言葉づかいに影響を与えているのは、各キャラクターの「性格」なのではないだろうか。「性格」とは、「行動のしかたに現れる、その人に固有の感情・意志の傾向」（デジタル大辞泉）である。つまり、キャラクターの性格が異なれば、行動も異なり、それは当然、言語行動にも影響を与え、その結果、性格の違いが言葉づかいに現れると考えられる。

そこで本研究では、高校生の五つ子姉妹が登場する、アニメ『五等分の花嫁』を分析対象とし、キャラクターの性格がどのような言葉づかいによって特徴づけられているのか明らかにすることを試みる。

2. 先行研究

本節では、本研究の背景となる性格と言葉づかいに関する先行研究をあげ、本研究の位置づけを示す。2.1では現実世界における人間の性格と言葉づかいについての先行研究、2.2では創作作品におけるキャラクターの性格と言葉づかいの研究を役割語の観点から論じた先行研究をあげ、2.3で本研究の位置づけを示す。

2.1 性格と言葉づかいに関する研究

小林（1985）は、言語運用における個人差を生む有力な要因の一つとして性格をあげている。小林（1985）は、これまでの言語研究により、言葉づかいの社会的・文化的要素（地域、性、年齢、職業など）との因果関係はかなり解明されてきているが、個人的要素である性格については

¹ 本研究では、「キャラクター」という語を「創作作品内の登場人物」という意味で用いることとする。

まだ明らかにされていないと述べ、言語運用の個人差と性格との関係を解明するために、以下の4つの指針を示している。

- (1) 抽象物でない、現実で使用された言語を研究の対象とする。
- (2) 言語使用者の性格をより良い方法でもって捉える。
- (3) 音声、語彙、統語、文体、話しことば、書きことばなど、言語（運用）の諸側面を分析する。
- (4) 個人の言語運用にかかわる社会・文化的要素と個人的要素とを可能な限り区別する。

（小林 1985：25）

また、福島（2004）は、終助詞「よ」「ね」の使用傾向と、対人関係に関わるパーソナリティ要因（外向性、開放性、承認欲求）との関係を質問紙によって調査している。その結果、終助詞を積極的に使用しない人には内向的性格との関係があることが確認され、非開放的性格との関連も示唆された。一方、積極的に「ね」を使用する人には開放的性格との関連があることも確認されたと述べている。しかし、福島（2004）は限られた終助詞とパーソナリティ要因との関係を検討したものであり、性格と言葉づかいを広く捉えているわけではない。

現実世界において、人はそれぞれ多様な社会的属性や性格を持っている。また、様々な要因によって、社会的属性や性格が変化することもある。そのため、社会的属性を統制して性格の違いと言葉づかいの関係を分析したり、同じ性格を持つ人物だけを複数集めて、その言葉づかいを分析したりすることは難しい。しかし、アニメなどの創作作品におけるキャラクターであれば、人物設定が明確であり、作品内でキャラクターの社会的属性や性格が大きく変化することなく維持されることが多い。したがって、性格と言葉づかいとの関係を探ることも可能であると考えられる。そこで本研究では、アニメのキャラクターを対象に、性格と言葉づかいの関係について分析を試みる。次節では、キャラクターと言葉づかいに関する先行研究について述べる。

2.2 キャラクターの性格と言葉づかいに関する研究

創作作品におけるキャラクターの言葉づかいの研究で代表的なものは、役割語研究である。役割語は、金水（2003）で以下のように定義されている。

ある特定の言葉づかい（語彙・語法・言い回し・イントネーション等）を聞くと特定の人物像（年齢、性別、職業、階層、時代、容姿・風貌、性格等）を思い浮かべることができるとき、あるいはある特定の人物像を提示されると、その人物がいかにも使用しそうな言葉づかいを思い浮かべることができるとき、その言葉づかいを「役割語」と呼ぶ。

（金水 2003：205）

ただし、金水（2014）では、役割語の定義における「特定の人物像」の事例である「年齢、性別、職業、階層、時代、容姿・風貌、性格」の中でも、特に重視したいのは、社会的・文化的なグループである「年齢・世代、性差、職業、住んでいる地域」としており「性格」については、やや個人的な問題になって言葉の問題とは必ずしも関係しにくい、と述べている。

西田（2009）は、社会的・文化的グループとは別に、性格的なグループにも共通する人物像が

あるとし、その人物像が発することばを「属性表現」と名付けた。また、役割語と属性表現との関係について西田（2009）は、人物像の全体的なイメージを喚起させる役割語と、部分的な属性を示す属性表現とでは、示す人物像の質に相違はあるものの、人物像と言語表現とを関連付けるという基本のところでは、同一の基盤にあると述べている。しかし、西田（2018）では、属性表現は特定のファン層の間ではヴァーチャルな世界に登場するキャラクターのお約束のような表現として理解されるが、その「知識の共有」が日本語社会を構成する日本語話者の大部分には及んでいないことから、属性表現は役割語未満の表現であると述べている。

富樫（2021）は、創作作品におけるキャラクターの性格等と結びついた言葉づかいは、役割語とは似て非なるものであるとし、「役割語的表現」と呼んでいる。役割語は特定の属性や人物像と特定の言葉づかいとの必要十分条件的な関係であるのに対し、役割語的表現は十分条件的でしかないと述べている。

深田（2022）では、『ドラえもん』や『ONEPIECE』といった国民的アニメ作品の主要登場人物を対象とし、「女好き」「紳士的」「臆病」「御調子者」という4つの性格と言言葉づかいの分析を行い、性格と結びついた役割語的表現と、社会的属性と結びついた役割語との類似点や相違点について考察している。その結果、性格を役割語における人物像の一つとして数えるのは難しいと結論付けている。

2.3 本研究の位置づけ

以上のように、創作作品におけるキャラクターの性格と言言葉づかいについての研究では、役割語との関係について考察されたものが多いが、キャラクターの性格と言言葉づかいとの結びつきは役割語の概念では捉えきれないという結論に至っている。小林（1985）の指針にも、「個人の言語運用にかかわる社会・文化的要素と個人的要素とを可能な限り区別する」とある。そのため、創作作品内のキャラクターの言葉づかいを分析する際にも、社会・文化的要素と強い結びつきを持つ役割語と、個人的要素である性格と結びつく言葉づかいは、切り離して考えるべきではないだろうか。役割語という概念を分析の前提に置くことで、見落とされていた現象もあるのではないかと考えられる。役割語との関係を論じるのではなく、まずは、キャラクターの性格の違いがどのような言葉づかいの特徴となって表れているのかを分析する必要があると考えられる。

また、性格の捉え方についても問題があると考えられる。これまでの研究では、作品内のキャラクターの性格を研究者がどのように判定したのかが曖昧で、不明な点が多い。また、あるキャラクターの性格が、例えば「明るい」という1つの性格表現語で表されることは少なく、多くの場合、「明るく、素直で、親切」というように複数の性格表現語で表される。このような性格表現語の組み合わせはキャラクターごとに異なるため、これらの組み合わせと言言葉づかいとを1つ1つ分析していくことは困難であり、分析結果を一般化するのも難しいだろう。キャラクターの性格と言言葉づかいとの結びつきを捉えるには、体系的な性格分類を行う必要があると考えられる。そこで、本研究では、製作者が公表しているキャラクター・プロフィールを根拠資料としてキャラクターの性格を判定することとし、パーソナリティ心理学の枠組みを用いてキャラクターの性格分類を行い、その上で性格と言言葉づかいとの関係を明らかにしていくこととする。

さらに、これまでのキャラクターの言葉づかいの研究は、金水（2003）が役割語の要素としてあげている、人称代名詞、文末表現、なまり、感動詞などを取り上げ、質的に行われた研究が多

い。しかし、従来の研究で「典型的である」「特徴的である」とされてきた言葉づかい以外にも、キャラクターを特徴づける要素があるのではないだろうか。計量的な分析を行うことで、これまでにあまり注目されてこなかった言葉づかいも拾い上げることができると考えられる。そこで、本研究では、キャラクターの発話データから対数尤度比を用いて特徴語を抽出し、性格と言言葉づかいの分析を行うこととする。

3. 分析対象

3.1 分析対象作品

本研究では、アニメ『五等分の花嫁』シリーズを分析対象とする。このアニメには五つ子の女子高校生姉妹が登場する。この5人は性格以外の社会的属性が共通しているため、性格と言言葉づかいに焦点を当てた分析ができると考えられる。また、キャラクター・プロフィールが公式ウェブサイトで公開されており、各キャラクターがどのような性格であるのか判定することができるため、この作品を研究対象として選定した。

本作品は、TBSなどの放送局から、第1期『五等分の花嫁』が2019年1月から3月まで、第2期『五等分の花嫁II』²が2021年1月から3月まで放送された。放送話数は、各期で12話、2期全体で24話である。簡単なあらすじは以下の通りである。主人公の男子高校生である上杉風太郎は、アルバイトとして同級生の五つ子姉妹の家庭教師を依頼される。家庭教師として五つ子と関わっていくうちに、姉妹全員が風太郎に想いを寄せるようになり、どうにか風太郎に振り向いてもらおうと画策するというラブコメディである。第1期は高校2年生の春から秋ごろまで、第2期は高校2年生の秋から3年生の夏ごろまでの物語である。

3.2 分析対象キャラクター

本研究では第1期『五等分の花嫁』および第2期『五等分の花嫁II』に登場する五つ子に焦点を当てて、分析を行う。公式ウェブサイトで公表されている五つ子のキャラクター・プロフィールは表1の通りである。キャラクターによっては、第1期開始時には視聴者に伏せられていた情報が第2期のプロフィールに追加されているため、各期にプロフィールが存在している。そのため、表1の左側に第1期、右側に第2期の内容を記載した。

² 第2期のタイトルにある「II」は、「ダブルインテグラル」という数学記号である。ただし、製作者からこの記号の読み方について言及されたことはなく、単に第2期であることを示すためにインテグラル(∫)を2つ重ねた記号が使用されたと考えられる。

表1 キャラクター・プロフィール

名前	キャラクター・プロフィール	
	第1期『五等分の花嫁』	第2期『五等分の花嫁』
中野 一花 (なかのいちか)	五つ子の長女。面倒見の良いお姉さんタイプだが、家ではめんどくさがりで部屋の掃除が苦手。実は姉妹に内緒にしていることがある…	五つ子の長女。面倒見の良いお姉さんだが、家ではだらけてしまう。駆け出しの女優として、日々邁進中。実はちょっぴりドジ。
中野 二乃 (なかのにの)	五つ子の次女。五つ子の中で一番姉妹を大事にしている反面、強気な言動で風太郎とよくぶつかる。料理が得意で中野家の炊事を担当している。	五つ子の次女。強気な言動でケンカをすることもあるが、姉妹思いの女の子。抜群の女子力で料理が得意。好きな相手には一直線なタイプ。
中野 三玖 (なかのみく)	五つ子の三女。口数が少なく落ち着いているが、戦国武将が好きというマニアックな一面も持っている。姉妹の変装が得意でたまに他の姉妹のフリを頼まれることがある。	五つ子の三女。ミステリアスで大人しい性格だが、内に秘めた思いを持っている。他の姉妹の変装が得意で、たまに他の姉妹のフリを頼まれる。戦国武将が好きな歴女。
中野 四葉 (なかのよつば)	五つ子の四女。元気いっぱいの人なつっこく、人から頼まれると断れない性格。姉妹の中ではスポーツが得意でよく運動部の手伝いをしている。	五つ子の四女。元気いっぱいでも何事にも全力で立ち向かう。断れない性格で良く運動部の助っ人をしている。頭に着けたりボンがトレードマーク。
中野 五月 (なかのいつき)	五つ子の五女。真面目で姉妹の中で一番の頑張り屋だが、その結果が中々出ない不器用な性格。食べることが大好きで姉妹の中では一番の食いしん坊。	五つ子の五女。不器用だが、真面目でひたむきな努力家。食いしん坊で好きな飲み物はカレー。たまに鈍感なときがある。

4. キャラクターの性格分類

4.1 性格の分類方法

本研究では、キャラクター・プロフィール（表1）に現れる性格表現語によるキャラクターの性格分類を試みる。性格分類の枠組みには、質問紙テストによる性格診断法であるエゴグラムを参考にする。本研究で使用するのは、日本で開発されたエゴグラムである東大式エゴグラム（TEG）、および東大式エゴグラム第2版（TEG II）である。末松ほか（1989）は、TEGは被験者が自ら行う自己評価だけでなく、第三者による客観的評価においても妥当性が確認されたと述べている。また、朴ほか（2018）でも、TEG IIを用いた性格分類が、コミックのキャラクターにも応用可能であることが示唆されている。そのため、TEGはアニメのキャラクターの性格分類の際にも有効であると判断し、本研究でのキャラクターの性格分類の枠組みとして使用することとした。以下でエゴグラム、およびTEG、TEG IIについての詳細を述べる。

エゴグラムは、交流分析に基づく性格診断法である。交流分析とは、1950年代後半にアメリカの精神科医エリック・バーンによって提唱された心理療法で、思考、感情、行動の元になるころの状態を「自我状態」と呼び、人のところには以下の5つの自我状態があるとしている。

- ① 父親のように厳しく批判的な自我状態：Critical Parent (CP)
- ② 母親のように優しく養育的な自我状態：Nurturing Parent (NP)
- ③ 大人になる過程で得た知識・経験から物事を判断する冷静な自我状態：Adult (A)
- ④ 子供のように本能のままに自由にふるまう自我状態：Free Child (FC)
- ⑤ イイ子でいようと周りに順応しようとする自我状態：Adapted Child (AC)

エゴグラムとは、これら5つの自我状態を尺度とし、各尺度の高低やバランスを質問紙テストによって数値化し、グラフにしたものである。このエゴグラムを観察することで人の性格傾向が分かるとしている。

TEG は、1984 年に東京大学医学部心療内科で開発されたエゴグラムであり、TEG II は 1993 年に発刊された改訂版である。TEG II では、このエゴグラムに現れる 5 つの自我状態の得点の高低のパターンによって、人の性格を大きく 19 類型に分類している。例えば、図 1 のように、CP の自我状態の得点のみが突出して高い場合は「CP 優位型」、反対に CP の自我状態の得点のみが低い場合は「CP 低位型」、NP と A の自我状態の得点が高く、他の 3 つの自我状態の得点が低い場合は「台形型」のように分類している。

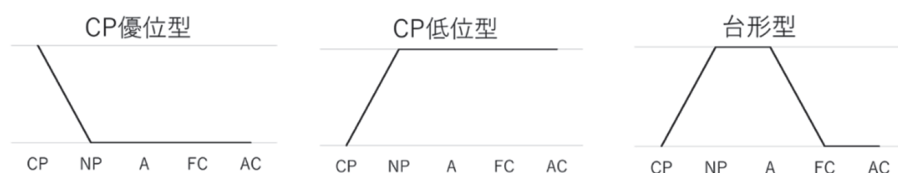


図 1 エゴグラム・パターン例

また、TEG II では、各自我状態の得点の高低によって現れる性格的特徴が、良い面と悪い面とともに示されており、これによってその人の性格を解釈することができるとしている。表 2 に TEG II における性格的特徴を示す。例えば、図 1 の CP 優位型の人であれば、CP の得点が高い場合の性格的特徴と、その他 4 つの自我状態の得点が低い場合の性格的特徴が現れる。また、台形型の人であれば、NP と A のそれぞれの得点が高い場合の性格的特徴と、CP、FC、AC の得点が低い場合の性格的特徴が現れる。朴ほか (2018) では、この性格的特徴に従い、キャラクターの性格分類を行っている。本研究でも朴ほか (2018) を参考に、以下の通りキャラクターの性格分類を行う。

まず、キャラクター・プロフィール (表 1) から性格表現語を抽出し、TEG II の示す性格的特徴 (表 2) と照らし合わせる。このとき、各自我状態の得点が高い場合の性格的特徴に合致した場合は“+1 点”を、値が低い場合の性格的特徴に合致した場合は“-1 点”を、その自我状態の性格的特徴と全く合致しない場合は“0 点”を付与し、キャラクターごとに各自我状態の得点を計算する。その得点をもとに、各キャラクターのエゴグラムを描き、そのパターンによりキャラクターの性格を分類することとする。ただし、TEG II で示されている性格的特徴はあまり多くないため、表 1 のキャラクター・プロフィールから抽出された性格表現語の意味や類義語を、デジタル大辞泉および Weblio 類義語辞典で調べ、表 2 の性格的特徴と対応付けた。

表2 TEG IIにおける性格的特徴（東京大学医学部心療内科 TEG 研究会 2009 より引用）

自我 状態	得点が高いとき		得点が低いとき	
	良い面と見れば	悪い面と見れば	良い面と見れば	悪い面と見れば
CP (批判的)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 責任感が強い ・ 秩序を守る ・ 義理堅い ・ 他人の権利を守る ・ 信念を貫く ・ ノーと言える 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 権威的、支配的である ・ 排他的である ・ 頑固である ・ 自分の価値を押しつける 	<ul style="list-style-type: none"> ・ おっとりしている ・ 友好的である ・ 他人を批判しない ・ 枠にとらわれない ・ こだわらない 	<ul style="list-style-type: none"> ・ ルーズでいい加減 ・ ケジメに欠ける ・ ルールや約束を破る ・ 何事にも適当である
NP (養育的)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 思いやりがある ・ 親切である ・ 世話好きである ・ 人に共感する ・ 奉仕の精神がある ・ 弱い者をかばう 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 人を甘やかす ・ おせっかいを焼く ・ 人に尽くしすぎる ・ 人に同情しすぎる 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 人間関係が淡泊 ・ サッパリしている ・ マイペースである 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 温かみがない ・ 人に共感しない ・ 思いやりに欠ける ・ 人付き合いが乏しい
A (大人)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 理性的である ・ 論理的である ・ 能率性、生産性が高い ・ 冷静沈着である ・ 事実に基づいて公正な判断をする ・ 自己卑下しない 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 冷たい ・ 機械的で、人間味に欠ける ・ ユーモアに欠ける ・ 打算的である 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 人間味がある ・ お人好しで純朴 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 現実離れ ・ 混乱しやすい ・ 考えと行動に一貫性がない ・ 主観に頼る ・ 計画性に欠ける
FC (自由)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自由奔放で明るい ・ 好奇心があり、チャレンジ精神に富む ・ 直感的にものごとをとらえる ・ 活発で何事にも積極的 ・ 創造性が豊か 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自己中心的でわがまま ・ 衝動に走りやすい ・ 感情的である ・ がまんができない ・ 無責任である 	<ul style="list-style-type: none"> ・ おとなしく控えめ ・ 調子にのらない ・ 物静かである ・ 感情的にならない 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 面白味がない ・ 暗い印象を与える ・ のびのびしない ・ 元気が足りない ・ 気分が沈みがち ・ 素直に自己表現できない ・ ものごとを楽しめない
AC (順応)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 協調性がある ・ 素直である ・ 人の意見が聞ける ・ がまん強い ・ 従順である ・ 他人に寛大である 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 遠慮しがちである ・ 人の言いなりになる ・ 依存心が強い ・ 恨みがましい ・ 他人の目が気になる ・ 自分の意見が言えない 	<ul style="list-style-type: none"> ・ マイペースを守る ・ 自主性に富む ・ 積極的で活発である ・ 自分の意見を言う 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 協調性に欠ける ・ 人の意見を聞かない ・ 自分勝手にふるまう ・ 妥協しない

4.2 性格の分類結果

表1のキャラクター・プロフィールから性格表現語を抽出し、表2のTEG IIの示す性格的特徴と照らし合わせ、各自我状態の得点を計算し、エゴグラムを描いた結果を表3にまとめた。これにより、【一花】はNPの値が突出して高いNP優位型、【二乃】と【五月】はCP優位型、【三玖】はA優位型、【四葉】はFC優位型であると分類した。

表3 性格分類結果

	プロフィールの性格表現語	TEGⅡにおける性格的特徴(得点)	各自我状態の合計得点				
			エゴグラム				
一花	面倒見がいい	世話好きである(NP+1)	CP	NP	A	FC	AC
			-1	1	-1	0	0
	めんどくさがり	ルーズでいい加減(CP-1)					
	ドジ	計画性に欠ける(A-1)					
二乃	姉妹を大事にしている(=姉妹思い)	思いやりがある(NP+1)	CP	NP	A	FC	AC
			2	1	0	0	-2
	強気	自分の価値観を押しつける(CP+1) 妥協しない(AC-1)					
	好きな相手に一直線	信念を貫く(CP+1) 妥協しない(AC-1)					
三玖	口数が少ない(=おとなしい)	おとなしく控えめ(FC-1)	CP	NP	A	FC	AC
			0	0	1	-1	0
	落ち着いている	冷静沈着である(A+1)					
四葉	元気いっぱい	活発で何事にも積極的(FC+1) 積極的で活発である(AC-1)	CP	NP	A	FC	AC
			-1	0	0	2	0
	人なつっこい	友好的である(CP-1)					
	断れない	人の言いなりになる(AC+1)					
五月	何事にも全力で立ち向かう	チャレンジ精神に富む(FC+1)	CP	NP	A	FC	AC
			-1	0	0	2	0
	真面目	秩序を守る(CP+1)	CP	NP	A	FC	AC
			2	0	-1	0	-2
五月	頑張り屋(=努力家)	信念を貫く(CP+1) 妥協しない(AC-1)					
	不器用	計画性に欠ける(A-1)					
	鈍感	協調性に欠ける(AC-1)					

5. キャラクターの発話の分析

5.1 発話の分析方法

本研究では、計量的なアプローチによる「特徴語」の抽出を行う。特徴語抽出の指標は様々あるが、本研究では、対数尤度比 (Log Likelihood Ratio : LLR) を用いることとする。LLR は、調査対象のテキスト (対象テキスト) における当該語の用例数が、比較のため参照するテキスト (参照テキスト) における当該語の用例数から期待される数と比較してどの程度多いのか、あるいは少ないのかを示す指標である (小木曾 2015)。石川ほか (2010) によると、LLR は語の出現頻度が低い場合にも有効な指標であるという。本研究で扱うデータは大きいものではなく、語の出現頻度が低いことが予想される。そのため、本研究では、特徴語抽出の指標として LLR を用いることとした。計算式は小木曾 (2015) に従い、以下の式を用いる。なお $\log(x)$ は自然対数を表す。

$$LLR=2 \left(a \log(a) + b \log(b) + c \log(c) + d \log(d) - (a+b) \log(a+b) - (a+c) \log(a+c) - (b+d) \log(b+d) - (c+d) \log(c+d) + (a+b+c+d) \log(a+b+c+d) \right)$$

a : 対象テキストにおける当該語の頻度

b : 参照テキストにおける当該語の頻度

c：対象テキストにおける当該語以外の頻度

d：参照テキストにおける当該語以外の頻度

ただし、対象テキストでの使用率が参照テキストの使用率よりも低い場合には -1 を乗じて補正し、反特徴語（現れにくいという意味で特徴的な語）を取り出すようにしている。このようにして求められた LLR は、その数値が大きければ大きいほど、対象テキストにおいて特徴的に多く用いられている語であり、数値が小さければ小さいほど、対象テキストでは用いられないという意味で特徴的な語であるといえる（小木曾 2015）。

特徴語抽出の手順は以下の通りである。まず、アニメ『五等分の花嫁』『五等分の花嫁』全 24 話分のキャラクターのすべての発話を筆者が日本語字幕を参考にテキストデータ化した。本研究で使用するの、そのうちの分析対象キャラクターである【一花】【二乃】【三玖】【四葉】【五月】の 5 人の発話データである。

次に、5 人の発話データの形態素解析³を行った。ただし、作品内のセリフには「な、何ですか」のような発話頭のつかえが頻繁に登場するが、それらには品詞を付与することができないため、新たに「つかえ」としてタグをつけた。なお、「てる」「とく」などは助動詞として解析されるが、「ている」「ておく」は、接続助詞「て」＋動詞「いる」などと解析されてしまうため、その基準を統一するために、「ている」「ておく」を助動詞と修正した。また、「林間学校」「修学旅行」などは複合名詞として 1 つの名詞となるよう修正を行った。

このような作業を経て得られた語のうち、「つかえ」と、句読点や三点リーダー等の「記号」を除いた 34,011 語を分析対象とし、キャラクターごとに出現頻度を集計した⁴。語の集計結果は以下の表 4 のとおりである。なお、異なり語数は 2,933 であった。

表 4 キャラクターごとの語の集計結果

	一花	二乃	三玖	四葉	五月	総計
語数	7,366	8,748	5,109	6,506	6,282	34,011

その後、分析対象としたすべての語に対して LLR を求めた。その際、例えば【一花】の LLR を求める場合は、【一花】の 7,366 語を対象テキスト、【一花】以外の 4 人の 26,645 語を参照テキストとして計算を行った。そして、得られた LLR の数値が大きいものから順に並べ替えることによって、各キャラクターの特徴語を抽出した。なお、本研究では、有意水準 0.1% で有意になる 10.83 を臨界値⁵とし、LLR が 10.83 以上の語を「特徴語」、-10.83 以下の語を「反特徴語」とした。

³ 解析器は MeCab (0.996)、辞書は UniDic (3.1.1) を使用した。

⁴ 集計は基本的には語形レベルで行っているが、動詞や助動詞は活用における音韻環境による語形の違いを考慮しないために、語彙素レベルで集計している。

⁵ LLR は、近似的に自由度 1 のカイ 2 乗分布に従うことが分かっている（森棟ほか 2015）。そこで本研究では、自由度 1 のカイ 2 乗分布の分位点を用いて、有意水準に対応する臨界値を定めた。有意水準が 5% だと臨界値は 3.84、1% だと 6.63、0.1% だと 10.83 となる。

5.2 品詞ごとの特徴語・反特徴語の分析

5.2.1 特徴語・反特徴語の品詞別集計結果

まず、各キャラクターの特徴語、反特徴語として抽出された語の品詞について確認しておく。表5、および表6に各キャラクターに抽出された特徴語、反特徴語の品詞別集計結果⁶を示す。

表5 特徴語の品詞別集計結果

品詞	CP		NP	A	FC	総計
	二乃	五月	一花	三玖	四葉	
感動詞	2	3	3	3	5	16
形容詞	1	0	1	1	0	3
助詞	7	5	4	0	0	16
助動詞	2	4	1	0	2	9
接尾辞	0	0	2	0	1	3
代名詞	4	2	0	0	0	6
動詞	2	3	1	1	1	8
名詞	4	2	4	6	4	20
副詞	1	2	0	0	0	3
総計	23	21	16	11	13	84

表6 反特徴語の品詞別集計結果

品詞	CP		NP	A	FC	総計
	二乃	五月	一花	三玖	四葉	
感動詞	4	0	1	0	0	5
形容詞	0	1	0	0	0	1
助詞	4	7	4	6	1	22
助動詞	3	2	3	3	1	12
接尾辞	2	1	1	2	1	7
代名詞	1	2	3	2	4	12
動詞	1	1	4	2	0	8
名詞	5	1	2	2	3	13
副詞	0	0	0	0	0	0
総計	20	15	18	17	10	80

表5の特徴語の総計を各キャラクター別に見ると、【一花】16、【二乃】23、【三玖】11、【四葉】13、【五月】21と、キャラクターごとにばらつきがあることがわかる。つまり、総数の多い【二乃】や【五月】は他のキャラクターよりも特徴的な言葉づかいをしており、反対に総数の少ない【三玖】や【四葉】は、他のキャラクターよりも特徴的な言葉づかいはしていないということがわかる。

表5の特徴語を品詞別に見ると、多いものから、名詞が20、感動詞と助詞が16となっている。また、表6の反特徴語を品詞別に見ると、多いものから、助詞が22、名詞が13、助動詞と代名詞が12となっている。これらの品詞の使用、不使用によってキャラクターの発話が特徴づけられていると考えられる。

また、表5の特徴語を性格別に見ると、代名詞と副詞はCP優位型の【二乃】【五月】の特徴語として抽出されているが、他では特徴語となっていない。また、多くの特徴語が抽出された助詞だが、CP優位型とNP優位型のキャラクターに集中している。性格によって、特徴語となる品詞が異なることがわかる。

以下、各キャラクターの特徴語および反特徴語を品詞ごとに整理し、分析を行う。

5.2.2 助動詞

助動詞は、助動詞語幹を除き、すべてのキャラクターで特徴語・反特徴語となっている。表7は、特徴語・反特徴語として抽出された助動詞をまとめたものである。なお、表中の無印の語が特徴語、×を付した語が反特徴語である。以下、性格を特徴づけていると考えられる語については、適宜、用例をあげながら、その傾向をまとめる。

⁶ UniDicだと、形状詞と形容詞、係助詞と副助詞は別の品詞として解析されるが、本研究ではそれぞれ「形容詞」「副助詞」としてまとめて集計した。なお、助動詞語幹は「助動詞」として集計している。

表 7 特徴語・反特徴語となる助動詞⁷

	CP 優位型		NP 優位型	A 優位型	FC 優位型
	二乃	五月	一花	三玖	四葉
丁寧	×ます	ます	×ます	×ます	ます
断定	×です	です ×だ	だ ×です	×です	です
否定	ない ×ぬ	ぬ ×ない	×ぬ	×ぬ	×ない
助動詞 語幹		よう			

助動詞では、普通体か丁寧体かを定める助動詞が多く抽出された。丁寧を表す助動詞「ます」、断定の助動詞「だ」の丁寧体である「です」が【五月】【四葉】の特徴語となっており、その他の3人には反特徴語となっている。

断定の助動詞「だ」はNP 優位型の【一花】にのみ特徴語となっている。また、否定の助動詞「ない」「ぬ」⁸が、CP 優位型の【二乃】と【五月】の特徴語となっている。これらは【二乃】と【五月】で対照的な分布をしており、2人の中での語の対立が見て取れる。以下に【二乃】と【五月】による否定の助動詞の用例を示す。

- (1) 二乃：しつこい。君 モテないっしょ。早く帰れよ。(1期－1話)
- (2) 五月：たとえ退学になっても あなたからは絶対に教わりません。(1期－6話)

5.2.3 助詞

多くの助詞が各キャラクターの特徴語・反特徴語となっている。表8は、特徴語・反特徴語として抽出された助詞をまとめたものである。

表 8 特徴語・反特徴語となる助詞

	CP 優位型		NP 優位型	A 優位型	FC 優位型
	二乃	五月	一花	三玖	四葉
副助詞	ってなんて ×は	は ×って			
準体助詞	の	の	×の	×の	
接続助詞	×が	が ×けど ×から	し ×が	×が	
終助詞	の よ かしら わもの ×か ×な	か ×わ ×よ ×の ×な	ね な じゃん ×わ ×かしら	×わ ×か ×ね ×よ	×わ
格助詞		を			

⁷ 表や本文中の特徴語、反特徴語の表記は、形態素解析の際、「語形（基本形）」として抽出された語の表記に合わせている。

⁸ 語形レベルでは「ぬ」として抽出されているが、発話での実現形は「ん」である。

副助詞はCP優位型の【二乃】【五月】の特徴語となっている。「って」「なんて」が【二乃】、「は」が【五月】から抽出された。以下の(3)～(5)のように、副助詞を使って取り立てて述べるというのがCP優位型の特徴であると考えられる。また、「って」と「は」については、使用の対立が見られた。

準体助詞は「の」がCP優位型の【二乃】と【五月】の特徴語となっている。【二乃】は以下の(4)の「何見てんのよ」のように、準体助詞と終助詞の連続で文末表現として表れており、【五月】は(6)の「～のです」のように、準体助詞と助動詞「です」との連続で文末表現として表れている。

接続助詞は「が」が【五月】の特徴語、「し」が【一花】の特徴語となっている。【五月】の特徴語である「が」は以下の(6)のような逆接を表す接続助詞である。【一花】の特徴語である「し」は(7)のように、理由を表す接続助詞として多く使用されている。

- (3) 二乃：勉強 勉強って バカみたい。(1期－3話)
- (4) 二乃：何見てんのよ。あんたの顔なんて もう見たくないわ。(1期－3話)
- (5) 五月：わたしは お嬢様では ありません。(2期－2話)
- (6) 五月：クラスメートが言ってたのですが、この森は出るらしいのです。(1期－10話)
- (7) 一花：同じ顔だし、四葉でもいけるんじゃない？(1期－3話)

終助詞では多くの特徴語・反特徴語が抽出された。終助詞は性格の違いを特徴づけるのに有効に使用されていることがわかる。「の」「よ」「かしら」「わ」「もの」が【二乃】の特徴語、「か」が【五月】の特徴語、「ね」「な」「じゃん」が【一花】の特徴語となっている。以下の(8)～(10)のように、【二乃】の特徴語となっているのは、女性が主に使用するとされている終助詞である。【五月】の特徴語である「か」については、(11)のように丁寧体の疑問文につくものであり、丁寧体の使用による特徴語である。

- (8) 二乃：そうなのよ。わたしが支えてあげないと だめよね。(1期－10話)
- (9) 二乃：わたしにプライバシーはないのかしら…。(2期－3話)
- (10) 二乃：あんたがわたしのことを好きじゃないなんて知ってるわ。ずっと きつく当たってたんだもの。(2期－9話)
- (11) 五月：そうでしょうか。セクハラしてたじゃないですか。(1期－4話)
- (12) 一花：いや 悪いね。こんな時に体調崩すなんてついてないな。(1期－11話)
- (13) 一花：ちょっとフータロー君、約束が違うじゃん。(1期－6話)

また、【三玖】に関しては、多くの終助詞が反特徴語として抽出されている。つまり、終助詞を使用しないことが特徴的だといえる。実際に以下の(14)を見ても、終助詞が使われず、淡々と話しているように感じられる。終助詞の不使用がA優位型の特徴だと考えられる。

- (14) 三玖：最近フータローがわたしの料理を食べてくれない。心当たりはある。わたしが不器用なものも知ってる。だけど作りたい。思わず食べたくなるようなチョコを。(2期－6話)

格助詞は「を」が【五月】の特徴語となっている。丁寧体の使用により、普通体では省略されることが多い格助詞が、省略されずに使用されているからだと考えられる。

5.2.4 感動詞

表9は、特徴語・反特徴語として抽出された感動詞をまとめたものである。

表9 特徴語・反特徴語となる感動詞

	CP 優位型		NP 優位型	A 優位型	FC 優位型
	二乃	五月	一花	三玖	四葉
感動	はあ		×あっ		わあ
笑い声	×アハハ		アハハ うふふ		えへへ シシシ アハハ
呼びかけ	ちょっと ×あの	あの			
応答	×うん	ええ		うん	
言いよどみ フィラー	×えーっと			あっんっ	えーっと
挨拶		すみません	ごめん		

感動を表す感動詞は「はあ」が【二乃】、「わあ」が【四葉】の特徴語となっている。【二乃】の「はあ」は、以下の(15)のように上昇調を伴うもので、相手に反抗的な態度を示すのに使用されている。四葉の「わあ」は(16)のような驚きの感情を表すものである。

(15) 二乃：はあ？ 五月、あんた本気？ (1期－2話)

(16) 四葉：わあー。上杉さんの妹ちゃんですか？ (1期－4話)

笑い声は「アハハ」「うふふ」が【一花】、「えへへ」「シシシ」「アハハ」が【四葉】の特徴語となっている。特徴語として笑い声が多く抽出されたのは四葉の持つFC優位型の性格によるものだと考えられる。以下の(17)～(21)に【一花】および【四葉】による笑い声の用例を示す。

(17) 一花：アハハ…。ごめんごめん。五つ子ジョークだよ。(1期－7話)

(18) 一花：うふふ。いつまでもお子様なんだから。(2期－8話)

(19) 四葉：えへへ。何か嬉しいな。全員同じこと考えてたんだね。(1期－12話)

(20) 四葉：後悔のない林間学校にしましょうね。シシシ…。(1期－10話)

(21) 四葉：アハハ！楽しい一日になりそうですね。(2期－10話)

呼びかけは「ちょっと」が【二乃】、「あの」が【五月】の特徴語となっている。以下の用例のように、CP優位型の2人は呼びかけるとき、感動詞を使用するようである。

(22) 二乃：ちょっと！どうするつもりなの？（1期－7話）

(23) 五月：あっ…。あ、あの…上杉君。（1期－12話）

応答の感動詞は「ええ」が【五月】、「うん」が【三玖】の特徴語となっている。どちらも肯定の応答を表すものである。また、言いよどみ・フィラーは「あっ」「んっ」が【三玖】、「えーっと」が【四葉】の特徴語となっている。挨拶表現は「すみません」が【五月】、「ごめん」が【一花】の特徴語となっている。

(24) 風太郎：後悔しても知らねえからな！

五月：ええ。たとえ退学になっても、あなたからは絶対に教わりません。（1期－6話）

(25) 風太郎：あいつ出て行ったぞ。いいのか？

三玖：うん。ほっとけばいいよ。（1期－3話）

(26) 三玖：う…。あっ…んっ…。そこまで言うならいいよ。（1期－2話）

(27) 四葉：えーっと えーっと…。あっ 手でも握ってあげたらどうかな？（1期－8話）

(28) 五月：すみません。わたしが寄り道したせいで。（1期－7話）

(29) 一花：もしかしてデート中？ ごめんね。（1期－1話）

5.2.5 副詞・動詞・形容詞

表10は、特徴語・反特徴語として抽出された副詞や動詞、形容詞をまとめたものである。なお、動詞は「敬語」とその他の「一般動詞」とで分けている。

表10 特徴語・反特徴語となる副詞・動詞・形容詞

	CP 優位型		NP 優位型	A 優位型	FC 優位型
	二乃	五月	一花	三玖	四葉
副詞	そ	なぜ、やはり			
敬語	なさる	くださる いただく			
	×くださる	×なさる	×くださる ×なさる	×くださる ×なさる	
一般動詞	断る		願う ×作る ×帰る	作る	頑張る
形容詞	嫌		恥ずかしい	好き	
		×いい			

副詞はCP優位型の【二乃】【五月】の特徴語となっている。「そ」が【二乃】、「なぜ」「やはり」が【五月】から抽出された。【二乃】の「そ」は「そう」が短く発話されたものであり、以下の(30)のように、「あっそ」の形で使用されており、相手を突き放すような印象を受ける。

敬語はCP優位型の【二乃】と【五月】の特徴語となっている。「なさる」が【二乃】、「くださる」「いただく」が【五月】から抽出された。「なさる」は以下の(33)のように、「～しなさい」という形で現れ、命令・指示で使われている。また「くださる」は(34)のように「～てください」、「いただく」は(35)のように「～ていただく」という形で使用されている。敬語表現を使

用するのも CP 優位型の特徴であると考えられる。

- (30) 二乃：あつそ。先行ってるわよ。(2 期－6 話)
 (31) 五月：なぜあなたが…。(2 期－6 話)
 (32) 五月：やはりあれは一花でしたか。(1 期－11 話)
 (33) 二乃：間違って飲んだわたしのジュース 買ってきなさいよ。(1 期－3 話)
 (34) 五月：えっ。何で閉めるんですか？ 開けてください！(1 期－4 話)
 (35) 五月：住所は生徒手帳を見せていただきました。(1 期－1 話)

一般動詞や形容詞については、【一花】の「願う」は、以下の(36)のように「お願い」という形で使用されており、依頼の際に使われている。また、【二乃】の「断る」や「嫌」は、(37)や(38)のように拒絶の態度を示すのに使用されている。これらは性格との関係があるように感じられるが、その他の動詞や形容詞に関しては、話題に左右されたものだと考えられる。

- (36) 一花：江端さんもお願い、協力して。(2 期－4 話)
 (37) 二乃：お断りよ。お断り。(1 期－8 話)
 (38) 二乃：こいつと同じ部屋なんて 絶対に嫌！(1 期－9 話)

5.2.6 名詞・代名詞・接尾辞

表 11 は、特徴語・反特徴語として抽出された名詞、代名詞、接尾辞の特徴語・反特徴語をまとめたものである。なお、名詞は「普通名詞」と「人名」とで分けている。

表 11 特徴語・反特徴語となる代名詞・接尾辞・名詞

	CP 優位型		NP 優位型	A 優位型	FC 優位型
	二乃	五月	一花	三玖	四葉
普通名詞	男 クビ パパ	父	お姉さん 先生	平等 チョコ 公平	林間学校 みんな
	×お母さん ×みんな				×こと
人名	キンタロー	下田	フータロー 三玖	フータロー 一花 二乃	上杉 一花
	×フータロー ×上杉 ×二乃	×フータロー	×上杉 ×一花	×上杉 ×三玖	×フータロー ×四葉
代名詞	あいつ あんた こいつ 何	あなた 彼			
	×あなた	×あいつ ×あんた	×あいつ ×あんた ×あなた	×あんた ×あなた	×あいつ ×あんた ×あなた
接尾辞			君 ちゃん		さん
	×さん ×君	×さん	×さん	×さん ×君	×君

人名、人称代名詞、接尾辞など、呼称に関する表現が多く抽出されている。まず、主人公である【上杉風太郎】を何と呼ぶのかは、5 人それぞれで異なっている。【一花】は「フータロー君」、【三玖】は「フータロー」、【四葉】は「上杉さん」と呼ぶため、人名「フータロー」「上杉」、接尾辞「君」「さん」がそれぞれ特徴語となっている。また、【一花】は以下の(39)のように「先生」

と呼ぶこともあるため、名詞「先生」が特徴語となっている。一方、CP 優位型の【二乃】【五月】は人称代名詞が特徴語となっている。「あいつ」「あんた」「こいつ」が【二乃】、「あなた」「彼」が【五月】の特徴語となっている。また、「あいつ」「あんた」「あなた」では、【二乃】と【五月】の対立的な分布が見られる。

(39) 一花：頼りにしてるよ、先生。(2 期－9 話)

(40) 二乃：あいつのせいだ！全部あいつのせい。(1 期－3 話)

(41) 二乃：一花！やっぱあんたは話が分かるわ。こいつは突然わたしに覆いかぶさってきたのよ！(1 期－3 話)

(42) 五月：あなたには教えは請わないと言ったはずですよ。(1 期－6 話)

(43) 五月：どうも彼とは馬が合いません。(1 期－7 話)

また、【一花】は以下の(44)のように、自分自身のことを「お姉さん」と自称することがある。また、(45)のように、姉妹で唯一【五月】のことを「五月ちゃん」と呼ぶため、これらが特徴語となっている。

(44) 一花：困ったら この一花お姉さんに相談するんだぞ。(1 期－1 話)

(45) 一花：よかった。五月ちゃんと合流できたんだね。(1 期－4 話)

疑問代名詞「何」が【二乃】の特徴語となっているが、これは以下の(46)のように相手の行動を非難する場面で使用されている。その他の普通名詞、人名に関しては、話題に左右されたものだと考えられる。

(46) 二乃：何勝手に決めてんのよ！(2 期－10 話)

6. まとめと今後の課題

以上、本研究では、アニメ『五等分の花嫁』を分析対象とし、東大式エゴグラムの枠組みでキャラクターの性格の分類を行い、対数尤度比によって各キャラクターの特徴語を抽出し、分析を行った。その結果、以下のように、キャラクターの持つ性格の違いが様々な言葉づかいによって特徴づけられていることがわかった。

① CP 優位型【二乃】【五月】

CP 優位型の【二乃】と【五月】からは、共通して否定の助動詞、副助詞、準体助詞、人称代名詞、敬語、呼びかけの感動詞が特徴語として抽出されており、これらの使用が CP 優位型の性格を特徴づけていると考えられる。また、否定の助動詞「ない／ぬ」、副助詞「って／は」、敬語「なさる／くださる」、人称代名詞「あいつ／あんた／あなた」では、対立的な分布も見られ、2 人のキャラクターによる語の使い分けが確認できた。

【二乃】は「の」「よ」「かしら」「わ」「もの」といった終助詞の中でも特に女性が使用する語が多く特徴語となっていた。また、上昇調を伴う感動詞「はあ」や、人称代名詞でもぞんざいな印

象を与える「あいつ」「あんた」「こいつ」なども、強気な CP 優位型の【二乃】の性格を特徴づけていると考えられる。

【五月】は助動詞「です」「ます」、敬語「くださる」「いただく」、応答の感動詞「ええ」、人称代名詞「あなた」などが特徴語となっていた。丁寧な表現を一貫して使用することにより、真面目な CP 優位型の【五月】の性格を特徴づけていると考えられる。

② NP 優位型【一花】

NP 優位型の【一花】からは、呼称に関する表現に特徴語が多く抽出された。自身を「お姉さん」と呼び、相手に「君」や「ちゃん」をつけて呼んでいた。また、終助詞「ね」「な」「じゃん」が抽出されている。このような語の使用によって、面倒見のいい NP 優位型の【一花】の性格を特徴づけていると考えられる。

③ A 優位型【三玖】

A 優位型の【三玖】は、特徴語として抽出された語が少なく、他の 4 人と比べて、言葉づかいに特徴がない。しかし、終助詞が反特徴語として多く抽出されたことから、終助詞を用いないことが、【三玖】の特徴だと考えられる。終助詞は話し手の伝達態度を表すものであり、それらを使用しないことで、淡々とした態度を表し、それにより、冷静沈着な A 優位型の【三玖】の性格を特徴づけていると考えられる。

④ FC 優位型【四葉】

FC 優位型の【四葉】からは、感動詞が多く特徴語として抽出された。感動詞の中でも、「えへへ」「シシシ」「アハハ」といった笑い声に関する語や、「わあ」といった驚きの感情を表す語が特徴語となっており、これによって自分の感情を素直に表現する FC 優位型の性格を特徴づけていると考えられる。

以上のように本研究では、アニメ『五等分の花嫁』を分析対象とし、五つ子という性格以外の社会的属性がそろっているキャラクターに焦点を当てることで、キャラクターの持つ性格がどのような語で特徴づけられているのか分析することができた。また、これまでの役割語研究ではあまり注目されてこなかった、副助詞や準体助詞などもキャラクターの性格を特徴づける語となりうることがわかった。

しかし、残された課題も多くある。本研究では、TEG II の枠組みを使い、キャラクターの性格を分類した。これにより、キャラクターの性格と言葉づかいとの結びつきの傾向を探ることができた。しかし、【二乃】と【五月】のように、キャラクター・プロフィールでは異なる性格として設定されているキャラクターであっても、同じ CP 優位型という性格分類になる場合があった。この 2 人のキャラクターの言葉づかいには共通した特徴もあったが、異なる特徴も多く見られた。同じ CP 優位型であっても、完全に同じエゴグラムを描いているわけではないため、その差が言葉づかいにも表れていると考えられるが、本研究ではその点についての分析は行わなかった。キャラクターの性格をどのように捉えていくのか、今後も検討を続けていきたい。

また、本研究では形態素解析による語レベルの分析結果を示したが、語と語の共起関係や、談

話レベルでの分析も行うことで、キャラクターの性格と言葉づかいの特徴がより詳細に明らかになるだろう。そして、本研究では統計的な手法で特徴語を抽出することを目的としたため、特徴語として抽出された語についての十分な考察は行わなかった。語の持つ意味や用法と照らし合わせることによって、より性格と言葉づかいの関係が明らかになると考えられる。これらは今後の課題としたい。今後は、他のアニメ作品からも様々な性格を持つキャラクターを収集し、その発話データを分析することによって、キャラクターの持つ性格がどのような言葉づかいで特徴づけられているのか明らかにしていきたい。

参考文献

- 石川慎一郎・前田忠彦・山崎誠 編 (2010) 『言語研究のための統計入門』くろしお出版
- 小木曾智信 (2015) 「中古和文における文体別の特徴語」 近藤泰弘・田中牧郎・小木曾智信 編 『コーパスと日本語史研究』 pp.93-117 ひつじ書房
- 金水敏 (2003) 『ヴァーチャル日本語 役割語の謎』岩波書店
- 金水敏 編 (2014) 『〈役割語〉小辞典』研究社
- 小林正佳 (1985) 「言語運用における個人差と性格との関係について ―理論的枠組と研究概観―」 『言語学論叢』 4 pp.15-29 筑波大学一般応用言語学研究室
- 末松弘行・和田迪子・野村忍・俵里英子 (1989) 『エゴグラム・パターン ― TEG 東大式エゴグラムによる性格分析』金子書房
- 東京大学医学部心療内科 TEG 研究会 (2009) 『新版 TEG II 活用事例集』金子書房
- 富樫純一 (2021) 「役割語の先へ ―役割語的表現への広がり―」 『日本語学』 40 (1) pp.26-36 明治書院
- 西田隆政 (2009) 「ツンデレ表現の待遇性: 接続助詞カラによる「言いさし」の表現を中心に」 『甲南女子大学研究紀要 文学・文化編』 45 pp.15-23 甲南女子大学
- 西田隆政 (2018) 「「属性表現」再考「複合性」「非現実性」「知識の共有」から考える」 定延利之 編 『「キャラ」概念の広がりと深まりに向けて』 pp.84-96 三省堂
- 朴柄宣・居林香奈枝・松下光範 (2018) 「エゴグラムに基づいたコミックキャラクタの性格分類」 『2018 年度人工知能学会全国大会論文集 (第 32 回)』人工知能学会
- 深田芽生 (2022) 「役割語研究の視点から見た人物の性格と言葉づかい―アニメシリーズの人物紹介文と登場人物の発話の分析―」 『国際日本学術研究論集』 15 pp.1-20 明治大学大学院
- 福島和郎 (2004) 「「よ」「ね」の使用におけるパーソナリティ要因の検討」 『日本パーソナリティ心理学会第 13 回大会発表論文集』 pp.58-59 日本パーソナリティ心理学会
- 森棟公夫・照井伸彦・中川満・西埜晴久・黒住英司 (2015) 『統計学 改訂版』有斐閣

参考ウェブサイト (最終閲覧日: 2022 年 9 月 28 日)

コトバンク デジタル大辞泉

<https://kotobank.jp/dictionary/daijisen/>

Weblio 類語辞典

<https://thesaurus.weblio.jp/>

TV アニメ『五等分の花嫁』公式ホームページ「登場人物」

<https://www.tbs.co.jp/anime/5hanayome/1st/chara/>

TV アニメ『五等分の花嫁』公式ホームページ「キャラクター情報」

<https://www.tbs.co.jp/anime/5hanayome/2nd/character/>

資料

Blu-ray『五等分の花嫁』1～5 巻 ポニーキャニオン

Blu-ray『五等分の花嫁』1～5 巻 ポニーキャニオン

Speech Expressions that specialize the Personalities of Anime Characters: In the Case of TV anime “The Quintessential Quintuplets”

SATO Manaka

KEYWORDS: anime, character, personality, Egogram, specialized vocabulary

This paper attempts to classify the characters' personalities by using TEGII (Tokyo University Egogram II) and extract the specialized vocabulary of each character based on the Log Likelihood Ratio from the TV anime “The Quintessential Quintuplets”. As a result, it was found that the differences in the characters' personalities are specialized in various ways of speech expressions. 1. CP (Critical Parent) character frequently uses the negative auxiliary verb *NAI/NU*, the adverbial particles *TTE/WA*, the honorific verbs *NASARU/KUDASARU*, and the personal pronouns *AITSU/ ANTA/ANATA*. 2. NP (Nurturing Parent) character addresses people in various forms such as *-KUN/-CHAN*, and uses the final particles *NE/ NA/JAN* frequently. 3. A (Adult) character rarely uses the final particles. 4. FC (Free Child) character uses the interjections about laughter and surprise frequently.